小田原俳句協会報

理事会だより（10・12）

一、令和五年度小田原秋季俳句大会について①来賓として守屋小田原市長、清水市議（議長の代理）のご出席確定（事業部）②大会当日の役割分担を最終確認、欠席者表彰の代理を指名、寿齢者表彰の段取りを決定（事業部・総務部）

二、秋の吟行会は十一月一日（水）に大雄山最乗寺にて実施につき再確認。（会計部）

三、第60回梅まつり俳句大会の募集案内を本理事会で配布、外部へも発信した。（事業部　事務局：木村幸枝さん・須田聡子さん）

四、（その他）①俳句大会当日の理事の活動時昼食の提供是非につき提案があったが賛否両論あり継続検討となった。②次期会長を選ぶ指名委員会開催状況につき長谷川副会長より報告　③おおいゆめの里俳句大会（六年三月九日）は予定どおり後援。

「俳句おだわら」10句抄（674号より）

岩楯恵津子　抄出

山門の赤き大下駄揚羽蝶　吉田　康雄
手に汗を心に汗を骨拾ふ　尾﨑　一夫
野良猫の瞳はアクアマリンよ稲の花　菅野　英余
涼しさや如意輪さまの細き指　加藤まり子
胎内に曼陀羅ねむる朧月　佃　悦夫
水中花星の貧しき町に住み　畠　梅乃
雲の峰翔平・朗希も南部藩　北村　文江
羽抜鳥若冲の絵にもどれない　田畑ヒロ子
花火果て後は潮の香波の音　山本　すみ
あさがほの葉のざわざわや正露丸　須田　聡子

田下昌人　抄出

山門の赤き大下駄揚羽蝶　吉田　康雄
パラフィン紙のやうな水面や望の月　伊藤はる子
テントが一つ公園の星月夜　瀧本　敦子
星月夜積木の家に灯がともる　峯尾ユキエ
涼しさや如意輪さまの細き指　加藤まり子
徹頭徹尾水を捧げる原爆忌　加藤　春江
ペイズリー柄のバンダナ夏の風邪　星　一義
新涼や組木ぴしりと指物師　瀬戸　りん
石階にわが影折れて灼けゐたり　高橋久美子
水中花星の貧しき町に住み　畠　梅乃

令和5年度小田原秋季俳句大会（五年十月十五日）

事前の兼題「星月夜、花野」に一七七名五三四句の投句、大会に五一名の参加を得て秋季としては二年ぶりに小田原市民交流センターに於て開催した。当日は来賓の守屋小田原市長、清水市会議員より祝辞を戴いた。

兼題入賞作品

小田原市長賞

大花野妻を少女にしてしまう　中村　秀子

小田原市議会議長賞

一握りほどの集落星月夜　渡辺　長汀

小田原俳句協会会長賞

終演の静かなほてり星月夜　荒　理依子

以下俳句協会賞（二十位まで）

国境は橋の真ん中星月夜　大島美恵子

星月夜はや寝落ちたる漁師町　西岡　青波

一片の雲ゆったりと花野行く　野川木一路

ラヂオより賢治の一話星月夜　菅野　英余

手を放し花野の風となる子供　菅原　淑子

原人となつてゆく師の花野道　小林永以子

花野去る既読のやうな顔をして　寶子山京子

星月夜どんどん小さくなる私　岡田　典代

星月夜カレーの匂ふ合宿所　奥村　ゑこ

波音のほかは聞こえず星月夜　村場　十五

己が影連れて花野に吹かれをり　近藤　久江

シャガールの人飛んでいる大花野　大石　和子

縦走の明日は横岳星月夜　佐藤　月下

まぶしさはさみしさに似て花野径　山田　照子

星月夜闇は静かに正座する　渡辺　治美

いちまいの風湧きおこる夕花野　田尻　睦子

透明になるまで歩く大花野　長谷川昭放

選者特選賞

小田原俳句協会名誉会長　佃　悦夫特選

シャガールの人飛んでいる大花野　大石　和子

小田原俳句協会顧問　新井たか志特選

音のない叫び聞こゆる星月夜　星　一義

小田原俳句協会会長　池田忠山特選

今はもうひとり花野を夢の中　神野美代子

小田原俳句協会副会長　山田照子特選

花野去る既読のやうな顔をして　寶子山京子

草むら俳句会代表　佐々木重満特選

無理数も虚数も忘れ星月夜　神山つとむ

こよろぎ代表　神山つとむ特選

端渓に渦まく墨や星月夜　瀬戸　りん

当日題入賞作品（席題「秋季雑詠」）

小田原俳句協会会長賞

すこやかに物忘れゆく菊日和　西岡　青波

（以下二十位まで）

おかはりは胎の子の分栗おこは　陌間みどり
爽やかや風のことばを句碑が聞く　竹本もりえ
太古から両手は器柿もらう　田畑ヒロ子
濁点の欠くる人文字天高し　池田　忠山
十六夜や掌にたっぷりと化粧水　川本　育子
大寺の柱のまろみ柿日和　小澤　純子
爽やかや私鉄車内の児童画展　星　一義
借り物は校長先生運動会　杉本　久子
来年は捨てる田圃の今年米　田中　幸子
柿の秋他郷の人として生きる　佐々木重満
全身が小さな楽器秋の蟬　北村　文江
うろこ雲湧くや園児の鼓笛隊　岡田　典代
ボロ靴でワルツをさらふ月夜かな　武居裕美子
秋思いまメビウスの輪の裏表　菅沼とき子
疎開地は今や故郷(ふるさと)鰯雲　渡辺　長汀
ヘルメットかぶる案山子の学校田　山田　照子
新しき木造駅舎小鳥来る　齊藤　桂
鈴虫に呼ばれて開ける厨窓　大澤　秀子
日の射して金波銀波の芒かな　芹澤　常子

俳句おだわら（10・19〆切り、到着順）

◆小田原鹿火屋（9・22）　久江報

風に乗る妣の言の葉秋桜　足立　和子
竜淵に水晶珠を魔除けとす　川本　育子
コスモスに和らぐこころもらひをり　高橋　小糸
狗尾草杖の先にて遊びをり　山﨑　悦子
風の道捉へ花野のかがやけり　近藤　久江

◆山北（9・28）　由里子報

オカリナのかすかな音色夜の秋　和田恵美子
棒おどりリズムに揺れる赤タスキ　尾崎　幸子
たましひに重さありとや秋あかね　星　一義
地下鉄の地上の駅や天高し　石田加津子
瞑想の端に居据る雨の虫　竹下由里子

◆春野（9・17）　きよ志報

友垣の故里なまり衣被　秋山　昇
秋暑し器の小さき漢かな　伊藤はる子
鳥黐(とりもち)に捕はれしごと残暑かな　内田知江子
秋風や臺が立っても嫁は嫁　尾﨑　一夫
賢治忌は近し銀皿のナポリタン　瀬戸　悠
青みかん入社内定届きたる　二見　和江

生身魂さうでなくとも派手好み　長谷川きよ志

◆みなみ（9・16）　かほる報

そこここに聞こえて来たる秋の声　小瀬村信子
朝刊を取る足もとやちちろ鳴く　柳川　紀枝
限りなき空へ落書き赤とんぼ　加藤　富江
送り火のさみしき炎手を合わす　加藤れい子
ちちろ鳴く荒れ放題の農耕地　加藤　健治
ときに鬼女時に仏や曼殊沙華　市川めぐみ
青芒活ける料理屋野の風情　豊田　幸枝
夫見舞う橋の往き来や星月夜　斉藤　静
入場無料全席自由虫の原　加藤かほる

◆沈丁（10・6）　寶子山報

新蕎麦や今日の予定は皆終り　若村　京子
新蕎麦ありと峠の茶屋の幟旗　柳澤ミサ子
鉢巻の漢（をとこ）入るなり走り蕎麦　田中　惠一
山寺や精進料理に走り蕎麦　河本　純子
新蕎麦や叔母は引退仄めかす　瀧本　敦子
うつし世をしばし忘れて走りそば　勝木　澄子
好き嫌ひなき子並びて走り蕎麦　菅野　英余
新そばの貼り紙に見る心意気　髙井　幸子
新蕎麦や竹笊に香もしたたりぬ　片野　節子
新蕎麦やぽつかり空いた父の椅子　峯尾ユキエ
いもすりて汁にからめて走り蕎麦　清水美代子
畠に蒔く頃より待ちし走り蕎麦　松下　俊之
新蕎麦の箸割る音も馳走かな　武居裕美子
新蕎麦の字がをどつてる深大寺　寶子山京子

◆おほゐ（10・11）　秀泰報

それぞれにストーリーあり秋の薔薇　二上　光子
いつ見ても花の女王か秋の薔薇　香川　花子
風音の尖りて秋の薔薇真赤　小野　菊土
陽をあびて二人の背に秋薔薇　石井千代子
秋句会憂いめきめき消えて行く　加藤　春江
過ぎし季の健気が淋し秋薔薇　高橋みどり
薄紅葉人に明日という未来　中根登美子
諏訪の原朝露芝にさんざめく　横塚　昌平
ちょぴりと愁いを誘うこぼれ萩　瀬戸とみ子
競い合いさりげなく添う秋の薔薇　中津川晴江
静かさや園にただよう秋の声　中村　昌男
そぞろ道踏み出す足に黄の落葉　廣田　悦子
秋薔薇銀の滴を花びらに　石井きよ子
丘の上天を突くよな秋の薔薇　風間　秀泰

◆たけのこ（10・4）　悦女報

栗ごはん夫の好みし祖母の味　徳田　公子
心太真鶴育ち諏訪で食む　三木　泰子
応へなきものへ語りて夜の秋　小宮　早苗
落日の光澄みたる秋隣　久津間百合子
縄張りの鴉追ひ出す冬の鳶　宮崎　悦女

◆香雨・梅ごち（9・24）　忠山報

長き夜やペンと眼鏡とハーブティー　肥後ちさこ
野に街に風立つところ狗尾草（えのこ）　関戸わよこ
風と風つなぐるごとくゴーヤの実　青山　典子
こよろぎの浜へと続く虫の声　門松　鳳文
珈琲の香のなかんづく夜長かな　吉田　百代
内側の白線うすれ運動会　吉田　康雄
爽やかや角をぴたりと紙を綴ぢ　陌間みどり
もう一度星を見上ぐる夜長かな　小澤　純子
豊年や葺かれて赤き宮の屋根　池田　忠山

◆こよろぎ（10・12）　つとむ報

赤とんぼ稔りの風に乗りにけり　髙杉掘三朗
雑木林ぬけて畦道彼岸花　板谷　雅泉
文豪の旧居あかるし鵙の声　植松テル子
赤とんぼ夕空晴れて帰宅せず　神山つとむ

◆鷹（10・7）　十五報

国風のあいさつ交し夜学生　青木　孝子
毛筆のカリグラフイーや居待月　池田　令子
庭の面に和毛吹かるる朝月夜　西賀　久實
朝刊の折込み厚し明けの月　佐宗　欣二
合流の水音高なる野菊かな　須田　晴美
入江出る釣船二艘朝月夜　中田　笑子
父の忌や備前徳利に稲一穂　百川　秀子
無花果の熟れ時鳥と鬩ぎ合ふ　山﨑美知子
腰下ろす土間の片隅秋の風　柏木　良花
午後の鎌研いで昼餉や豊の秋　庄司　下載
川底の石の明るき白露かな　瀬戸　りん
窓々の百の灯や震災忌　高橋久美子
喨喨と駅長の笛はぜもみぢ　中山智津子
蒲の絮ほぐれし水のひかりかな　芹澤　常子
実朝の首塚かまつかの真つ赤　齊藤　桂
電柱に古き町名鰯雲　大木　敬子
抜襟の美人画新酒汲みにけり　大島美恵子
白楊に一陣の風秋の山　田下　昌人
丸文字のファックス受信敬老日　中根　和子
木の間より風さやけしや鳴子峡　加藤　幾代
皀角子や城へと続く取水口　高橋千代子

名月や母の遺せし舞扇　守屋　まち
前山の紅葉明りや鍬洗ふ　米山　翠
お城見る異国のペアや赤蜻蛉　來田　新子
朝明けに銀杏拾う尼僧かな　大沢　年子
公園の大き日だまり金木犀　片野　秋子
言葉さがす見舞の手紙ちちろ鳴く　小林　環
豊年や一輪車押す息子の背　下平　美子
奉納の玉垣一基豊の秋　鳥海　壮六
新蕎麦や平らかな湖藍深し　古屋　徳男
取込みの一日終へたり夕月夜　村場　十五

◆青梅（10・18）

雨戸あけ真向いに立つ秋の富士　幸子報
野紺菊花の軽さに風そだつ　大塚　行人
行く秋や留守を案じる旅二日　湯本とし子
冠雪の富士に深々一礼す　加藤まり子
里老いて田畑荒れをりちちろ虫　久保寺トミ子

◆草むら（10・19）

食卓に上る秋刀魚の小さささよ　田中　幸子
骨太に挑まんばかりの虫の声　重満報
秋夕焼彼方に瓦礫の街がある　石井　秀稀
　　佃　悦夫
　　佐々木重満
　　たか志報

秋寒や地球の自転感じつつ　岩本ひさみ
晩秋の山に眠れる遺跡かな　杉本　久子
秋深し座右の本の布表紙　木村　幸枝
籾焼きの煙りの中の笑ひ声　新井たか志
　　史郎報

◆零（10・19）

名刀を手に入れるごと秋刀魚買う　青木たけを
家出せん石を抛らばスーパームーン　伊藤　道郎
明日は咲く庭の小菊は露を呼び　川合　昌子
遠山に着くまで景色吾亦紅　佐藤　正子
ぼーと観る「ももへの手紙」秋の午後　野川木一路
赤とんぼ点から景へ視野拡げ　岡本　史郎

◆無所属

落葉一枚買物につくポイント　小林永以子
雲間よりスーパームーン南瓜煮る　畠　梅乃
風のまま芒素直な生き方に　岩楯恵津子
老いたなぁ新酒三杯だけで酔う　大佐田うづき
紅競う一期一会の射干花　小早川のぞみ
雲重く垂れて栗の実落ちにけり　出澤　洋子
友の文また読んでいる園の秋　田代　孝子
今日の色尽して落つる酔芙蓉　一ノ瀬茂代
新涼や鼻に抜けたる濃茶の香　蓑宮　わか

渋柿を突いて舌打ちする鴉　木村美千代
入念に山粧うて大地抱く　山本　すみ
子宝を家訓に伝え万年青の実　山口　千代
秋の蚊やホルモンバランスは崩れ　瀬戸　正洋
十月の波の挫折と流木と　小澤　園子
十六夜や欠けたる心見透かされ　穂坂志げる
をみなへし女郎花（おじょろさん）と祖母嫌ふ　神野美代子
野路菊や観光バスの帰り来る　須田　聡子
茄子焼いて向こうへ突きぬけてしまった　大石　雄介
中央公園いも虫体操十七時　大石　和子
秋涼し目覚めの早き島時間　山田　照子
歩け歩け休み処のきのこ汁　岡田　典代
子蟷螂わらわら誰かいませんか　杉山あけみ
虫しぐれ闇の重さの中を行く　田畑ヒロ子
何か握ってる赤子の秘密青みかん　北村　文江
驥尾に付す青蠅九里より十三里　小島ノブヨシ

＊

理事会日程　11／9、12／14、1／11
（毎週第2木曜日　けやき15時より）

俳句おだわら鑑賞

小澤　純子　（令和5年9月号）

蝉しぐれ石段一つづつ上る　加藤　健治

神社の境内へと続く石段であろうか。樹木は青々と茂り、かすかに木洩れ日が感じられるほどで、頭上からは降るような蝉の声。いささか苔むして角が円くなっている石段。「昔はすいすいと上れたのになあ。」などと思いつつ、蝉しぐれの中を躓かぬように一つづつ上っている作者の姿が想像される。

平易な言葉で表現された句の中に、情景が浮かび想像と趣を感じられました。

中山智津子　（令和5年8月号）

梅雨晴間峰また峰の八ヶ岳　近藤　久江

八ヶ岳は、赤岳を最高峰に八峰が連なり、登山者のあこがれの山である。作者は八ヶ岳の麓を散策中梅雨の晴間に顔を出した赤岳の雄々しさに感動し、硫黄岳、横岳と目が行き思わず峰を数え、「やっぱり峰は八つだ」と実感したのであろう。

この句と出合い夕日に染まる赤岳、星のきれいな空、朝採りトマトの瑞々しさ、皆なつかしい。もう一度訪ねてみたい地である。

加藤　幾代

持番の寒柝響く寺通り
会合の茶菓に添へたる蜜柑かな
今時はスーパーに買ふ八里半
冬凪や遊覧船の波白し
着ぶくれてガラスに写る布袋腹

小瀬村信子

まだつぼみ空じっと見る月見草
初秋の雨に草木の喜びて
初秋の朝の空気に癒されし
稲穂垂れ農家の人に思い寄す
夏休み今日でお終いこの気持ち

高橋千代子

カンナ咲く駅古びたり故郷は
山門に無患子の実を二つ三つ
白秋や金婚の日の皿洗ふ
下戸なれど酔つてみたしよ月の秋
秋晴や信号板の薄つぺら

武居裕美子

荻吹くや君のネイルの深き色
老犬の背を撫で夫の夜長かな
秋灯や教会宝石箱となり
落書きの如き秋桜文に添へ
自分への土産もみぢの一葉かな

廣田　悦子

鰯雲狭き歩幅のもどかしや
コスモスに透明の風行き交いて
炉手前に音なき所作の調べきく
谺する山の子総出の運動会
オルゴール夏の想い出螺子ゆるり

二見　和江

出すぎたるペンのインクや秋暑し
秋出水地球に欲しき抑止力
迷ふこと止めて閉ぢたる秋扇
九月来るたたかひ一つ終へしやう
一句二句出来ればよろし西鶴忌

星　一義

迷い込むシエスタの路地秋暑
朝露や火刑地印す石畳
カウベルの思わぬ近さ朝の霧
踊り場のニケの翼や秋の潮
復興の聖母教会天高し

横塚　昌平

芋の露仄紫の夜明け空
露の世と悟るパンダの惰眠かな
玉簾に西施の瞳露時雨
露の世になどて歯ぎしり腕まくり
白露に荒地浄土となりにけり

城苑俳句・冬の部

（合同句集第十二集59～74頁より近藤久江抄出）

臘梅の香をいただき野弁当　高井　幸子
声高に襤褸もち出づる小正月　髙橋フミ子
秘めごとのなしセーターの静電気　高橋久美子
冬紅葉丹沢湖畔照り翳り　髙橋　小糸
初日の出受けてかがやく波頭　髙橋　秋月
人日やドクターヘリの飛び立てり　高橋千代子
切岸に迫り出す松や初御空　高橋　正子
先をゆく冬蝶の道低くある　瀧本　敦子
書初にト音記号の混じりおり　竹下由里子
缶蹴りの缶のゆくへや寒落暉　田下　昌人
頭をかすめかもめ飛び交ふ冬の海　田代　孝子
朴訥に紬を語る寒の入　田中　恵一
北風や漬物樽の箍締まる　田中　幸子
焼芋屋竹馬の友のように来る　田畑ヒロ子
出初式天に構へし長梯子　田渕　令子
蠟梅の死ぬほど眼搏ちにくる　佃　悦夫
遅れ来しひとり焚火の香を纏ひ　出澤　洋子
凍鶴よゆっくりしてからお帰り　寺口　成美
隣りまで父の大声なづな打ち　寺澤　明美
被写体は夫と二人の初写真　徳田　公子

寒椿地図の折り目に沈む村　豊田　幸枝
平均寿命夫婦でこえて冬紅葉　鳥海　壮六
行く年や貨車通過せる夜のホーム　中田　笑子
吉凶も全部掃き出し大祓い　中津川晴江
元朝の白き俎板すべる水　中根　和子
原石の様な子もいて初写真　中根登美子
山肌の脈打つ如く初明り　中野　文子
踏み慣れし土はあたたか枯野道　中村　裕子
着膨れて心の声を聞きもらす　中村　昌男
傷あまたある鍵穴や息白し　中山　妙子

令和五年 年間ベスト一句集案内

一、全会員に、令和5年中の作品からベスト一句を自選していただきます。協会報とは限らず各人の全発表作品を対象として下さい。
一、各グループごとにとりまとめて下さい。グループの責任者には別途そのお願いをさし上げます。
一、無所属の方は、広報部あて「ベスト一句集」としてはがきで送稿して下さい。
一、〆切り　令和6年1月12日（2月号掲載）
一、送稿先　〒250-0042　小田原市荻窪五四九ー一七
小田原俳句協会広報部　村場十五

第60回小田原梅まつり俳句大会

第一部　作品募集

兼　題　「梅」（春に限る）「春待つ」（いずれも傍題可）各一句一組　未発表作品に限る

締　切　令和五年十二月一日（金）必着

整理費　一組に付き千円（句稿に同封、何組でも可）

投句先　〒258－0053 小田原市堀の内七九
須田聡子☎〇四六五―三六―〇〇九四

＊作品は原稿どおり印刷します。

選　者　協会役員及び各地有力作家（投句者に限る）

賞　県知事賞以下二十位まで　選者特選賞六人

第二部　俳句大会

日　時　令和六年二月十日（土曜日）

会　場　小田原市民交流センター（ＵＭＥＣＯ）

受　付　十一時　投句締切：十二時　開会：十二時半

整理費　五百円（呈飲料）

席　題　春季雑詠一句と席題当日発表一句　総互選

賞　市長賞以下五十位まで（結社賞含む）参加賞

（主催）小田原市観光協会　（主管）小田原俳句協会

（後援）各地俳句協会

＊各グループは当日までに結社賞をご用意下さい。

＊会場は飲食可能です。マスク着用など感染症防止対策にご協力ください。

小田原俳句協会　〒二五〇―〇〇二二　小田原市本町二―一三―二　池田　忠山方

第75回神奈川県民俳句大会
第13回おおいゆめの里俳句大会

第一部　作品募集

兼　題　「水仙」「春」（いずれも傍題可）各一句一組　未発表作品に限る

締　切　令和六年一月十五日（月）必着

整理費　一組に付き千円（句稿に同封、何組でも可）

投句先　〒258－0019 足柄上郡大井町金子一一四一
小野菊土☎〇四六五（八三）〇八八〇

＊作品は原稿どおり印刷します。

選　者　俳句協会役員及び各地有力作家（投句者に限る）

賞　県知事賞以下二〇位まで

第二部　俳句大会

日　時　令和六年三月九日（土）

会　場　町立そうわ会館（大井町山田五〇二）駐車場完備
☎〇四六五（八五）一六〇一
送迎バス小田急線新松田駅九時三〇分

受　付　十時　投句締切：十一時三〇分　開会：十二時

整理費　五百円（飲み物呈）※昼食は各自ご持参下さい

席　題　春季雑詠一句と当日発表席題一句　相互選

賞　県知事賞以下四十位まで

（主催）神奈川県民俳句連盟　おほゐ俳句会

（後援）神奈川県　県議会　県教育委員会　大井町
大井町教育委員会　大井町文化団体連絡協議会　小田原俳句協会　各地俳句協会